

5.2 官庁関係者からの期待

——特に建設省の立場から——

望月邦夫*



私は建設省の大臣官房の技術参事官でございますが、役目柄、大学土木教育に望むということにつきましては大部分建設省の立場でお話することとなりますが、細部につきましては個人的見解が入るということをあらかじめご了承ください。

まず、建設省が大学の土木教育に望むということを上げる資料といたしまして、お手元に土木系統の大学を出た建設省の土木技術者の実態を調べましたプリントがございますので、これにつきましてあらかじめ建設省の実態を申し上げまして、引き続きましてその教育問題についての話に入りたい、かように考える次第でございます。これを見ていただきますと、建設省職員の総数 34 267 人のうち技官が 12 683 人と研究職が 399 人を

表-1 建設省人員調べ
(昭和43年5月1日現在)

区分	総数	行政職(一)		研究職	技官(土木系)	大官学卒	大私学卒	大上級卒	高専卒	その他	新卒(高・旧)
		技官	事務官								
本省	1333	497	754	82	—	275	131	29	80	27	88
土研	530	54	122	56	298	176	67	32	61	15	62
建研	179	23	36	19	101	3	3	—	1	—	—
地理院	990	619	268	103	—	2	2	—	1	—	—
建大	121	57	52	12	—	10	6	1	3	2	1
東北	4592	1575	1522	1495	—	1119	49	26	35	103	941
北陸	2568	906	803	859	—	664	36	25	33	35	568
関東	7583	2463	2133	2987	—	1675	74	148	53	204	1249
中部	3907	1523	1201	1183	—	1300	58	125	44	84	1033
近畿	3601	1450	1161	990	—	1016	56	89	44	87	784
中国	2646	1119	862	665	—	732	61	23	33	50	598
四国	1605	670	525	410	—	503	40	9	29	54	400
九州	4612	1727	1528	1357	—	1189	72	40	35	99	978
地建計	31114	11433	9735	9946	—	8198	446	485	306	716	6551
総計	34267	12683	10967	10218	399	8664	655	547	452	760	6702

注: 6) 研究職を含む。以下同じ。

2) 昭和24年度以降土木職、上級職(甲)合格者数

*正会員 前建設省大臣官房技術参事官、現同近畿地建局長

図-1 建設省の職員数調べ

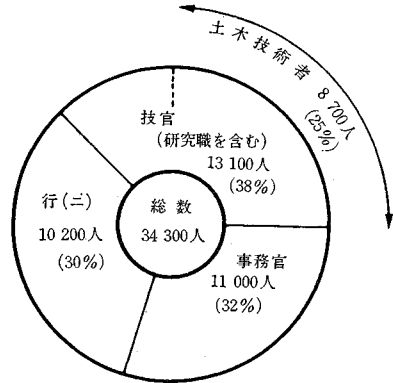
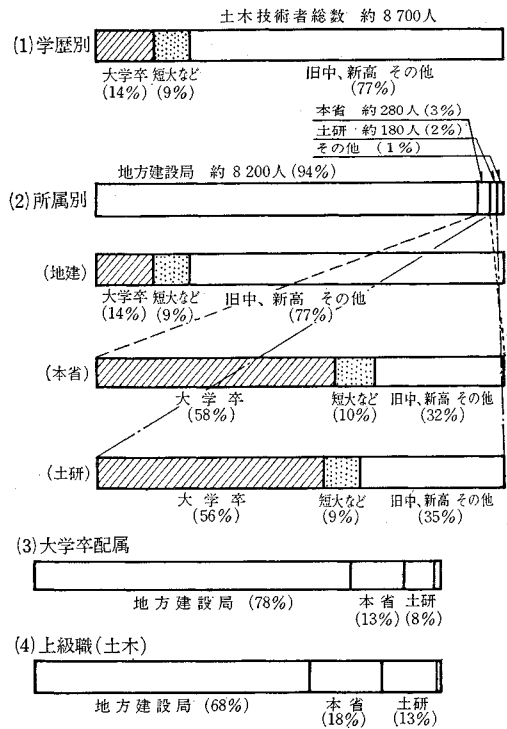


図-2 建設省の土木技術者の状況



占めております。また技官のうち、土木関係は 8 664 人で、その中で官公立の大学卒が 655 名、その他の私立大学卒が 547 名、特に公務員試験上級職合格者は、452 名となっております。

これを図で見てくださいと、約 8 700 名の土木技術者のうち大学卒が 14% となっており、これを所属別に見てみますと、大学卒業生は地方建設局においては 14% を占め、逆に本省では 58% が大学卒業で土木研究所でも 56% を占めております。また大学卒の配属の状況を見ますと、78% が地方建設局におり、本省には 13%、土木研究所には 8%、特にとり出しまして最近の上級職の公務員試験の合格者についていえば 68% が地方建設

局に配属され、本省には 18% となっているわけでございます。

建設省におきまして、これらの技術者がその職域におきましてどういうポストを占めているかと申しますと、本省関係の事務次官、技監、河川局長、道路局長からはじまり、本省内の課長のポスト 46 のうち技術系の課長ポストが 26 ございまして、そのうち 17 名を占めている。また 8 つある地方建設局では局長、河川、道路の各部長、それから企画室長がみな土木の技術者でございます。木本研究所では、申すまでもなく所長以下幹部は全部土木技術者というふうなことでございます。

こういうふうな状態を考えてみますと、土木行政を担当する建設省という立場におきまして、おのずからわれわれが大学卒技術者に求めるものが出てくるわけでありまして。と申しますのは、いま申しましたように大学卒技術者は、地建におきましてはほとんど組織の幹部といたしましてわれわれ建設省の直轄工事を実施しておりますし、また本省におきましては次官以下、非常に重要なポストを技術者が占めてまいっておるというようなことから考えますと、それぞれに適した人材の養成ということがわれわれとしては一番望ましいわけでございます。ことに最近の土木の行政というものを考えてみますと、従来はとかく現場におきまして、それぞれの必要性に応じて仕事をやっていくということでございましたが、最近におきましては非常に仕事の規模も大きくなり、たとえば国土縦貫自動車道、あるいは本州と四国との架橋、あるいは琵琶湖の開発等々、考えますと、非常に仕事そのものが大型化してくると同時に、その地域に与えるところの社会的な影響というものが非常に大きいわけでございますので、それらにつきましても相当認識を持ってプランから入っていくということの必要性があるわけでありまして。それと同時に、やはり土木技術の研究あるいは開発という面もございまして、これらに応じた高度の知識を持った技術者というものが必要でございます。一般行政を担当する技術者といたしましても、技術的な観点において初めてわれわれの存在価値があるわけでありまして、建設行政がこのような基盤の上に進められていくことをわれわれとしては努力するというのが、社会に貢献する道であるというふうに考えます。したがって、基礎的と申しますか、ある程度専門的であって、同時に幅広い知識を持つ技術者ということをお願いするをえないという立場でございます。

それからつぎに、われわれの建設省というものが、受け入れる側としてはたしてどういうふうな形になっているかという問題があるかと思いますが、これまた非常にむずかしい問題で、人物の教育、技術的な要求というものは前に述べましたように要求が大きいのであります

が、それに応じた形で受け入れているかどうかという問題があるわけでございます。しかし、何ぶんにも、一般公務員 50 万をこえます中で、その一部分として扱われるということから、現在われわれとしてはかなり不満足な点がございまして。たとえば、特に痛感しておりますのは、専門的な非常に価値の高いスペシャリストに対する待遇というものは、残念ながらわれわれとしてはまだ十分とはいえないと感じておりますので、この点につきましてはわれわれとしても努力はいたしますが、現状としてはそういうことでございます。このような待遇面の不備はありましても、われわれとしての要求としては、研究者にいたしましても、今後は単にスペシャリストではなくて、たとえば四国の大きい橋を 1 つの研究課題としてまとめていくといったような、研究管理をなす能力を持つ研究者と申しますか、そういう方々の出現もわれわれとしては非常に要望するわけでございます。

さて、以上のような総括的要請がございまして、つぎに少し具体的な問題について、一、二、希望を述べてみたいと思います。まず、最近大学のほうで都市工学あるいは衛生工学というふうな研究の学科が出てまいっておりますが、現在の官庁機構におきまして、それらをスムーズに受け入れる部分があるかどうかということがよく問題となります。何ぶんにもわれわれのところの建設省の仕事が、どうしても従来の方になっているため、卒業後すぐに学校で修得した部面が生かせないというふうなことになるざるをえないのでございますが、このことにつきましては、現状だけを判断していろいろの問題を考える必要はないんじゃないかと考えております。やはり、将来都市問題あるいは衛生工学の問題というものが非常に重要性を増してくるであろうというふうに考えますので、現在受け入れがスムーズでなくても、将来は必ずそういった態勢をつくっていくというふうにわれわれも考えておるわけでございます。

それともう一つ、行政的な立場においては、さような技術の素質があつて幅が広い者への要求を申し上げましたが、建設省としてはそれのみではなく、建設技術の進歩発展ということを相当念頭に置く必要があるわけでございます。とかく土木技術の進歩が非常に遅いというふうな風評をされるわけでございますが、これは単に建設省といったところだけでできるものじゃなくて、土木技術というものは、他の工学あるいは理学の発展によって総合的に発展する分野でございます。その点で、大学内におきましても他の学科との交流と申しますか、土木エンジニアにその他の知識を与える機会を与えて欲しい。そしてできるならば、その大学の学園の中におきまして総合的な土木技術の発展のケルンができていくということが非常に大事なことじゃなかろうかと感ずるわけで

ございます。世の中に出ますとどうしてもそれぞれのセクションがございまして、セクショナリズムといわずとも、それらの連携がむずかしくなります。こういった問題の解決は、やはり大学教育という中において解決していけるのが非常に有望じゃなからうかというふうに考えております。現在、建設省のエンジニアがよく外国に出ますけれども、これは悪いことじゃないと思えますけれども、やはりもう少し国内留学というような形におきまして、土木を出た人間も機械の分野に入っていくというふうなことができますならば、いずれその効果が上がるものがあるんじゃないかと感ずる次第でございます。

最後でございますが、最近海外への技術の進出の問題

がございます。それにつきましても、現状を見てみますと、どうしても政府ベースにおいて先行していくというのが多いわけでございます。建設省におきましても、アジア地域で3つの大使館にアタッチェとして技術者がおります。またそれにともないまして、毎年それぞれの要請に基づきまして各プロジェクトの予備調査に行くというようなケースが非常に多いわけでございます。ところが、これに適合した人材が少ないということで悩んでおります。これに対する要求も感じているわけでございます。

以上きわめて、役所の立場でございますので、端的に申し上げられませんが、感じたことをお願い申し上げる次第であります。

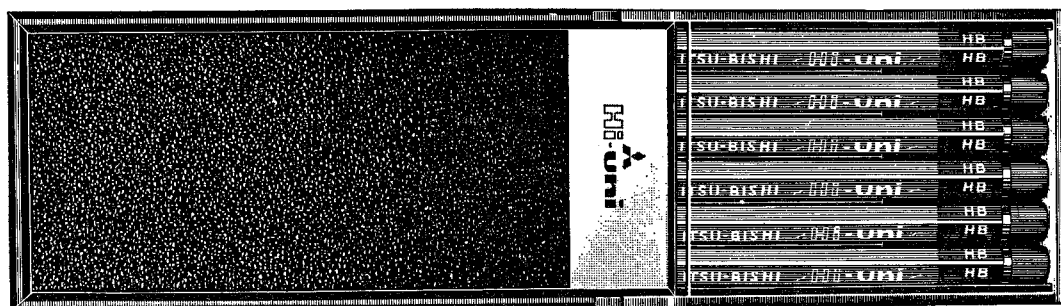
コンクリート 第18号 ■現場コンクリートの品質管理と品質検査 ライブラリー

コンクリートの品質管理は、一般製品の管理とは異なり、統計的手法を単純に適用できない面もあり、特に品質検査結果の判定には複雑な要素を考慮することが必要となります。

本書は、コンクリートの品質管理を統計数理の説明から実施例まで詳細に解説した技術者必けいの書ですので広くご利用下さい。

体 裁：B5判8ポ一段組 108 ページ
定 価：700 円 会員特価 550 円
著 者：尾坂芳夫（国鉄構造物設計事務所技師）

世界の鉛筆メーカーに先がけてついに成功！ ミクロのシン



■ハイ・ユニは世界最初のミクロのシンです。三菱鉛筆の技術の結晶です。黒鉛と粘土を大小さまざまな微粒子にして、理想的に配合しました。ハイ・ユニが、いままでの鉛筆にくらべて、ズバ抜けてすぐれているのは、このためです。

9H→6B・17硬度・1ダース¥1200 1本¥100

三菱鉛筆 | **ハイ・ユニ**
三菱鉛筆株式会社